

Wellness Action2020 取り組み例：本社健康フェス

- 1人でも多くの従業員が参加できるように途中入退室を自由とし、各自気になるセミナー、イベント、測定機器を利用できる健康フェスを2019年秋に開催しました。
- 260名程度の参加があり、本社勤務者の約25%が参加しました。



入退室は自由



ヨガセミナー（心とからだのやすらぎ）



VRを活用したスポーツイベント



骨年齢、脳年齢、肌年齢などの測定コーナー

Wellness Action2020 取り組み例：メンタルヘルス研修

・不調の予防を目的としたストレス対策に加え、協和キリングroup経営理念・価値観に基づき、お互いの関係性や創造性を高める取組みとして、「ポジティブメンタルヘルス職場ショート研修」を566組織で実施しました。実施にあたっては、1人ひとりが議論にしっかり参加できるよう、グループ・課・係単位で開催しました。

・研修実施後の参加者からは「感謝の気持ちをちゃんと伝える」、「周りの身近な人の良いところをお手本にする」、「仕事が楽しくなるような具体的な工夫を考える」といったポジティブな声が聞かれました。

この研修は、Wellness Action 2020の取組の一環として実施します。

【実施目的および期待効果】

ストレスチェックに代表される、不調の予防を目的としたストレス対策に加え、FISH哲学を利用した職場単位のショート研修を行うことにより、チーム力を向上させる行動の気づきを得るとともに、各自のアクションに繋げる。

協和キリングroupの健康経営



第1章

1、ポジティブメンタルヘルスが注目される背景

『ポジティブメンタルヘルス』とは人のポジティブな感情や考え方、行動を向上させることにより、組織を活性化させる取組です。

近年の経営環境は、『VUCA』と表現される、先が読めない、変化の激しい時代であり、企業は常に新しい発想やアイデアを生み出すことが求められています。社会の期待に応えるためには、わたしたち自身も常に進化する必要がありますが、経営に関する知見はすぐに広まるため、組織は能力の高い人が集まっただけでは大きな差がつきにくくなりました。このことは、チームの力がかつてない程に重要性を増していることを意味しています。今、チームは、あるべき姿とのギャップを埋めるものから、お互いの関係性を高めて将来のありたい姿を創造するポジティブアプローチに変化しています。

